

学位論文要約

中国における女子の第二次性徴に関わる下着教育に関する研究

指導教員 鈴木 明子
副指導教員 村上 かおり
副指導教員 今川 真治

広島大学大学院教育学研究科
教育学習科学専攻 教科教育学分野
人間生活教育学領域

D184533 庄 莉莉

論文構成

序 章 研究の背景及び目的

第1章 女子の第二次性徴に関わる下着装着及び下着教育の必要性

第1節 下着装着に関する基本的・基礎的知識や技能を習得する必要性

第2節 女子の第二次性徴期の発達の特徴及びブラジャーの役割

第3節 中国と日本の女性下着の普及過程及び女性における意識の変化

第2章 女子の第二次性徴に関わる下着教育における家庭，学校及び社会教育の役割

第1節 家庭，学校及び社会教育の役割と連携・協働の意義

第2節 中国における家庭，学校及び社会教育の現状と課題

第3節 女子の第二次性徴に関わる下着教育の家庭，学校及び社会教育における位置付け

第3章 日本における女子の第二次性徴に関わる下着教育の現状

第1節 日本の企業による女子の第二次性徴に関わる下着教育の現状

第2節 日本における女子の第二次性徴に関わる下着装着と下着教育に関する母娘の意識

第3節 日本の女子の第二次性徴に関わる下着教育における家庭，学校，社会教育の連携・協働の課題

第4章 中国における女子の第二次性徴に関わる下着装着と家庭教育の現状と課題

第1節 中国における女子の第二次性徴に関わる下着装着と下着教育に関する母娘の意識

第2節 中国における女子の第二次性徴に関わる下着装着に関する母娘の意識の関係性

第3節 中国における女子の第二次性徴に関わる下着装着と家庭教育の課題

第5章 中国における学校と社会の女子の第二次性徴に関わる下着教育の現状と課題

第1節 中国の学校における女子の第二次性徴に関わる下着教育の現状

第2節 中国の社会における女子の第二次性徴に関わる下着教育の現状

第3節 中国における学校と社会の女子の第二次性徴に関わる下着教育の課題

第6章 中国における女子の第二次性徴に関わる下着教育の展望

第1節 中国における女子の第二次性徴に関わる下着教育の改善の方向性

第2節 中国における女子の第二次性徴に関わる下着教育の指導内容の検討

第3節 中国の下着教育の意義と家庭，学校及び社会教育の協働・連携の必要性

終章 研究の総括と今後の課題

序 章 研究の背景及び目的

現在、ブラジャーは女性の生活必需品となり、第二次性徴期から生涯、毎日ブラジャーを着けている女性が多く、その装着方法が適切であるかどうかは女性の心身に大きな影響を与えている¹⁾。ブラジャーは日常的に女性の身体にもっとも密着して装着されるが、その実態は予想外に望ましくない。中国の西南地域における女子大学生の 87.0%はブラジャーを着け始めるべき時期が分からず、74.5%はブラジャーの装着を恥ずかしい、不安だと思った経験がみられた(梁偉紅ら, 2013)²⁾。なお、21 世紀以降、多くの国では初潮年齢の低下傾向は徐々にみられなくなった³⁾⁴⁾が、乳房発達の起動年齢が著しく早まったという報告がみられ⁵⁾⁶⁾、女子の乳房の発達の低年齢化に注目が集まった。年齢が低いほど、身体の変化に対応する心構えと知識が乏しいと考えられる。早い時期に乳房の発達の特徴を理解し、自分の身体の状態を把握することが必要である。また、着用目的に応じて健康で快適な下着の選択や装着ができるような下着教育の重要性が問われている。

第二次性徴に関わる下着教育の必要性和有効性は世界の多くの研究者によって検証されてきた⁷⁾⁸⁾。特に、日本の教育研究者によって多く報告され⁹⁾¹⁰⁾¹¹⁾、日本の下着メーカーは思春期の女子と保護者を対象に下着教室を開いたり¹²⁾、学校の養護教諭に指導キットを配布したりして¹³⁾、その教育成果が評価されている¹⁴⁾¹⁵⁾。第二次性徴に関わる下着教育における家庭と学校、また学校と企業の連携・協働が有効であることが示唆されている。

そこで、本研究では、中国における女子の第二次性徴期の下着装着の現状と課題を調査によって明らかにし、中国における関連の教育を改善する必要性を追究した。また、中国の家庭、学校と社会における女子の第二次性徴に関わる下着教育の現状と課題を調査や文献から分析し、日本の女子の第二次性徴に関わる下着教育の展開方法に照らし、家庭、学校と社会教育の連携・協働の視点から、中国における女子の第二次性徴に関わる下着教育の改善に示唆を得ることを目的とした。

第 1 章 女子の第二次性徴に関わる下着装着及び下着教育の必要性

第 1 節 下着装着に関する基本的・基礎的知識や技能を習得する必要性

現代の下着は、機能上、保温や衣服の汚れを防ぎ、体型を整え、上に着る衣服の形を整えたり、上着とのすべりを良くしたりする役割があり、主に保健衛生的役割を果している。また、下着は人体に最も密着している衣類として、その装着における働きや素材の性能への理解が必要であり、自分の身体との関係の理解も求められている。ブラジャーの装着には、乳房やブラジャーに対する認識は女性の自己認識や女性意識の形成に影響を与えている。快適で自分らしい衣生活を送る基盤となる能力を身に付けるためには、自分自身の発達状況を踏まえて健康・快適・安全に対する意識をもち、下着装着に関する基本的・基礎的知識や技能を習得することが必要である。

第 2 節 女子の第二次性徴期の発達の特徴及びブラジャーの役割

女子の第二次性徴は、一般的に乳房の発育、陰毛の発生、初潮の順に出現する¹⁶⁾。最初に起こる変化は乳房であり、乳房が膨らみ始めて 1~2 年後に初潮が訪れ、約 4 年間をかけて成長する¹⁷⁾。また、成長期の乳房はかたちやかたさが大人と異なるという特徴があり、成長期向けのブラジャーが求められる。早い時期にこれらの変化を理解させ、羞恥心や抵抗感を抱くことなく身体の変化を受け入れさせることが重要である。ブラジャーの装着には、物理的、生理的、心理的効果が挙げられる¹⁰⁾¹⁸⁾。そのほか、第二次性徴期において、ブラジャーは成長する乳房を守る役割ももっている。最初の乳頭や乳輪が膨らみ始める時期に、乳頭を目立たせず、衣服との擦れなどの痛みから乳頭を守り、乳房が膨らみ始める次の

時期になると、ブラジャーは成長する乳房を包んで乳腺を守り、脂肪が混ざっていない固い乳房の揺れを小さくして動くことを助ける役割を果たす¹⁹⁾。乳房発達のプロセスに応じて適切なブラジャーを選択し着用することが重要であり、第二次性徴に関わる下着教育が必要とされる。

第3節 中国と日本の女性下着の普及過程及び女性における意識の変化

女性の性的特徴を誇張し、人体の曲線をより際立たせる西洋の服と下着に対して、洋服用の下着が取り入れられる前の中国や日本を含む東アジアの伝統的衣服と下着は、女性の性的特徴を隠すことを目的としており、保守的な性観念の表われがそこにみられる。女性の洋装やブラジャーが中国と日本に取り入れられたのは同じ1920年代であったが、その後中国と日本は全く異なる歴史の流れとなった。日本では第二次世界大戦後、女性の社会進出の増加に伴ったのに対し、中国では、ブラジャーが本格的に普及し始めたのは1980年代からであった。しかし両国ともにブラジャーが正しく装着されておらず、成長期におけるブラジャー装着への注目度が低かった。一方、日本の下着メーカーは、戦後から積極的に下着ショーや下着教室などの啓蒙活動を行い、さらに、21世紀に入って成長期向けのブラジャーの開発や教育支援にも力を入れており、評価されている¹²⁾¹³⁾。このことから、第二次性徴に関わる下着教育における企業と学校、企業と保護者の連携・協働が有効であると考えられ、中国の第二次性徴に関わる下着教育の改善に有益な示唆が得られる可能性を認識した。

第2章 女子の第二次性徴に関わる下着教育の家庭、学校及び社会教育における役割

第1節 家庭、学校及び社会教育の役割と連携・協働の意義

教育には意識的計画的学校教育、また無意識的無計画的な社会教育と家庭教育がある。Urie Bronfenbrennerの生態学的システム理論(Ecological system theory)では、子どもは家族、家庭生活を中心に、学校や地域、また自然環境や文化社会といった複雑な環境とのかかわりの中で、相互に影響を与え合い発達していくと論じられている²⁰⁾。(…中略…)そのシステムの中では、家庭教育、学校教育や社会教育がそれぞれ独自の役割を果たしている一方、それぞれの課題も抱えている。さらにグローバル社会や情報化社会の中で、子どもを育てる環境はさらに複雑になってきている。田井らは、親としての教育意識の変化による家庭の教育力の低下が多くの教育課題の根本的原因となっており、家庭教育は学校教育と地域のもつ教育力を基盤として、本来の教育力を取り戻さなければならないことを指摘している²¹⁾。家庭、学校や社会はそれぞれの機能を発揮しつつ、相互補助を行うことによって、親自らの教育責任の自覚、教師の教育意識の転換、社会の人的・物的資源の活用を喚起し、教育の諸問題を共に解決していくことが求められている。

第2節 中国における家庭、学校及び社会教育の現状と課題

中国における近年の教育政策の変化をみると、知育偏重の“応試教育”(受験戦争)の影響により、子どもの健全な自我が崩壊する危険に晒されている。保護者も子どもに進学のための学習に集中させ、勉強の妨げとなるすべてのものから遠ざけるという家庭教育の様子が伺える²²⁾。学校教育の果たす役割が見直され、2001年に、子どものさまざまな素質や人間性を育てようとする徳・知・体・美・労の総合的素質を高める「素質教育」²³⁾が導入された。一方、このように、学校教育の教育内容が拡大し続け、過大な責任を負うようになっている。家庭教育は学校の延長の形を担い、社会教育には体系性が欠けているという三者のバランスが崩れ、子どもに、各々の機能を果たしていないことが問題化されてきた。中国教育部は2023年に、「家校社協同育人(家庭と学校及び社会が協働して人を育成する)」の重要性を強調し、家庭、学校や社会のそれぞれの責任を明確にし、その実現のための体制づくりを推進している²⁴⁾。

「素質教育」の改革につれて、体育に含まれる子どもの健康と心身の発達の調和もますます重視されており、2008年末児童生徒の健康的素質を高めることを学校教育の基本目標の一つとして掲げられ、健康教育が推進されることとなった²⁵⁾。健康教育には思春期における心身の変化について小・中学校の段階別に学習目標と学習内容を明確に定めており、その中には適切なブラジャーを選択し、正しく着けることが中学校段階の学習内容として示されて、第二次性徴に関わる下着装着についての学習の必要性が認められている。しかし、中国における女子のブラジャー望ましくない装着状況²⁾と児童生徒が第二次性徴に関する知識欠如の問題²⁶⁾ ²⁷⁾ ²⁸⁾ ²⁹⁾が多くの調査によって指摘され、望ましい教育成果がみられていないことが推察される。健康教育における家庭、学校及び社会教育による三者連携の重要性が多くの研究で示されている一方、具体的連携方法の探究が課題となっている。

第3節 女子の第二次性徴に関わる下着教育の家庭、学校及び社会教育における位置付け

第二次性徴に関わる下着教育は女子の思春期に関わる健康教育の一環として、身体と発達のデリケートな内容が含まれる。家庭での個別指導が理想だが、学校教育における専門知識の系統的学習の支援が望まれ、また、下着を含むほとんどの衣服が産業体系の中で生産される現代社会では、下着メーカーや専門研究員の情報提供も求められる。家庭教育を中心に、学校教育を基盤とし、社会教育の情報提供を求める第二次性徴に関わる下着教育の推進と家庭、学校と社会教育の連携・協働を試みることは価値があると考えられる。

第3章 日本における女子の第二次性徴に関わる下着教育の現状

第1節 日本の企業による女子の第二次性徴に関わる下着教育の現状

ワコール（株）の人間科学研究開発センターは、2012年に「子どものバストの成長変化の法則」¹⁷⁾を発表し、グンゼ（株）は2004年に「ジュニアブラジャー「ピエ・クレール」の開発」³⁰⁾の論文を発表した。両社とも科学的な根拠に基づいて、成長期向けのブラジャーの開発を行っている。

なお、ワコール（株）は2001年から「ツボミスクール」という出前下着教室を開催し、小学生コース、中学生コース、保護者コース、養護教諭コースの4つのコースを設けている¹⁴⁾。また、2021年10月から「ツボミスクール」のオンライン型と学ブラのオンライン講座を増設し、親子同席の親子コースも開始した。個人や学校に向けて多様な連携方法を発信している中、母娘が交流できる情報共有の場所づくりに力を入れている¹²⁾。

グンゼ（株）も思春期の女子及びその保護者、養護教諭を対象とした出前教室を行っている。学校との連携事例が多く報告され、学校保健委員会に参画し保護者と連携するという三者連携の事例もみられた¹⁸⁾。また、グンゼ（株）は年間100校以上の養護教諭に「下着指導キット」という下着指導の教材を配布しており、多くの養護教諭はそれぞれの学校実態に合わせてこれらを活用し、評価していた¹⁶⁾。

「下着指導キット」の使用については、「保護者の認識を高め子供の不安を取り除くため、保護者と連携して指導を行う」ということを養護教諭に薦めている³¹⁾。グンゼ（株）は学校の実態に応じて多様な連携方法で対応しており、学校経由で保護者への情報提供も重視している。

第2節 日本における女子の第二次性徴に関わる下着装着と下着教育に関する母娘の意識

下着メーカーが行っている下着教育においては、思春期の女子に限らず、保護者への情報提供も重視されており、日本の思春期の女子はブラジャー装着に関してどのような意識をもっているのか、母親はどのような役割を果たしているのかを捉えるため、日本の広島県内の県立 A 高等学校へ通う女子生徒及びその母親を対象に、質問紙調査（2017年6～7月）を実施し、娘、母親別に、「知識・理解」、「実態・

行動」,「関心・意欲」の観点別に分析を行い,主に次のような結果を得た。

知識・理解に関しては,乳房発達の3つのステップについて,知らない日本の女子高校生はいずれも90%ほどであった。また,53.8%はブラジャーを含む下着全般が健康に影響を及ぼしていることを認識していなかった。サイズ表示の意味と成長期向けのブラジャーの存在を知らない女子高校生はいずれも半数ほどであった。実態・行動に関しては,ブラジャーのサイズが分かる,購入する際に試着や採寸のどちらかを行っている,また正しい方法でブラジャーを手入れしている女子高校生はいずれも半数ほどであった。乳房の発達やブラジャー装着についての日本の女子高校生の知識・理解度は低く,実態・行動も望ましくない実態がみられ,第二性徴に関わる下着教育の充実が必要と考えられる。一方,半数を超える母親は月経や乳房の発達及びブラジャーについて娘と話し合っておらず,ブラジャーについての6つのことを娘に教えている母親は7.7%~46.2%で少なかった。さらに,自分の成長期向けのブラジャーに関する知識や情報について不安を感じている母親は64.1%を占めた。乳房発達やブラジャー装着についての母娘のコミュニケーションが不足していることと母親の知識情報の欠如が課題であると考えられる。意欲・関心に関して,80%近くの母親と半数ほどの女子高校生はブラジャーの着用や選び方を学校で教えてほしいと答え,学校教育における系統的科学的学習を望んでいることが示された。

第二性徴に関わる下着装着に関する母娘の意識の関係性を回帰関数で分析した結果,知識・理解及び関心・意欲においては,母親と娘との関係性がみられなかったが,母親の実態や行動と娘の実態や行動には相関がみられた($r^2=0.179$, $p<0.01$)。乳房発達やブラジャー装着についての母娘のコミュニケーションが不足しているとしても,日本の女子高校生は母親のブラジャー装着についての日常行動から大きな影響を受けており,母親の役割が重要であることが分かった。

第3節 日本の女子の第二性徴に関わる下着教育における家庭,学校,社会教育の連携・協働の課題

日本における第二性徴に関わる下着教育において,母親の役割が重要であるが,母親の教育意識を高めるとともに,母親に知識情報を提供するなど学校や社会からの支援が求められ,母娘が交流できる場を設定することも必要と考えられる。また,現在日本で行われている第二性徴に関わる下着教育は主に大手下着メーカーが主導し,学校との連携が多くみられたが,主に養護教諭が学校の実態に応じて,下着出前教室を申し込んだり,提供された教材で指導を行ったりしている状況が確認できた。学校における養護教諭のような専任教師の設置が重要と考えられる。一方,ワコール(株)やゲンゼ(株)の下着教育は,東京と大阪の大都市圏だけに限定されたものであり,出前教室の講師の人数は少ない。全国に普及させる対策の検討や,学校教育カリキュラムの一環としての指導方法及び連携方法を検討することが必要である。

日本の学校と地域連携政策の推進によって,その実現ための「コミュニティー・スクール」などの取り組みが全国で広がってきた³²⁾。このような教育連携・協働対応が進んでいる背景と,コロナ対応のオンライン受講の環境整備の中で,日本における第二性徴に関わる下着教育の家庭,学校及び企業の連携は,ますます広がっていくことが期待できる。

第4章 中国における女子の第二性徴に関わる下着装着と家庭教育の現状と課題

第1節 中国における女子の第二性徴に関わる下着装着と下着教育に関する母娘の意識

日本の調査から,母娘のコミュニケーションが不足しているとしても,娘は母親の日常行動から大きな影響を受けており,母親の役割が重要である示唆を得られた。中国の思春期における女子の第二性徴に関わる下着装着の意識及び母親の役割を検討するため,福建省泉州市にある小,中,高一貫の公立

Y 学校の高校部の女子生徒とその母親 300 組を対象に質問紙調査（2021 年 1 月）を実施した。調査内容と分析方法は、第 3 章における日本の調査と同様であり、主に次のような結果を得た。

1) 女子高校生

知識・理解に関して、3 人に 1 人の女子は高校生になっても乳房発達の順序やプロセスについて全く知らない状況であった。成長期向けのブラジャーについて知らない者は 36.8%であり、ブラジャーのサイズ表示が分からない女子高校生は半数を超えた（70.2%）。中国の女子高校生の第二次性徴に関わる下着装着に関する知識・理解は十分ではないと考えられる。

実態・行動に関して、半数近く（44.7%）の女子高校生は乳房の膨らみを意識しないままこの時期を迎えており、この時期への対応を重視していないと考えられる。73.7%の女子高校生は自分のブラジャーのサイズが分からず、しかも 39.7%の女子高校生は購入する際に試着も採寸も行っていない実態が明らかになった。ブラジャーを正しい洗濯方法や干し方で行っていない者は 30.3%みられた。また、現在乳房の発達またはブラジャー装着について、困っている女子高校生はそれぞれ 86.0%と 59.2%に至った。一方、半数近くの女子生徒（44.7%）は月経や乳房の変化及びブラジャーについて身近な女性やその他の家族と相談しない、あるいは話しづらい状態であることが明らかになった。中国の女子高校生の第二次性徴に関わるブラジャー装着に関する実態・行動には課題があると考えられる。関心・意欲に関して、乳房発達とブラジャーへの学習意欲を示した女子高校生は 84.2%であった。学校で教えてほしいと思う女子高校生は 68.0%であった一方、希望する教師について、学校の教師ではなく、思春期に関わる健康教育の専門家を希望する生徒が最も多かった（60.1%）。また、62.7%は母親と一緒に受けたいと回答した。多くの女子高校生は乳房の発達やブラジャー装着について関心をもっており、ブラジャー装着に関する家庭教育や学校教育の乏しさを感じ、家庭、学校や社会教育の連携による系統的科学的学習を望んでいることが明らかになった。

2) 母親

知識・理解においては、乳房発達のプロセスにおける 3 つのステップを知らない母親はいずれも半数を超え、30.7%の母親は成長期向けのブラジャーがあることを知らなかった。中国の母親は乳房の発達と成長期向けのブラジャーについての知識・理解が不十分な実態がみられた。

実態・行動に関して、中国の多数の母親は、ブラジャーを購入する際の試着や採寸の習慣があり（86.8%）、自分のブラジャーのサイズの正しさ（82.5%）と手入れ方法に自信をもっている（82.5%）ことは評価できる。一方、娘の下着教育に関する母親の実態・行動に関して、約 1/4 の母親（27.2%）が娘の乳房の発達の大切な時期を見逃した。また、月経や乳房の変化及びブラジャーについて、3 人のうち 1 人の母親（39.1%）は娘とあまり話し合っていない、あるいは話したことの無い現状がみられた。なお、ブラジャーについて娘に教えるべき 6 つの事項について、母親が娘に教えたと回答した数を「3 つ未満」と「3 つ以上」に分けて集計したところ、「3 つ未満」は 55.9%で半数を超えた。60%を超える母親は自分の成長期向けのブラジャーに関する知識や情報について不安を感じていた（67.1%）。

関心・意欲に関して、9 割ほどの母親は乳房発達とブラジャーについてもっと知りたいと考えており（89.9%）、学校で娘にブラジャーの着用や選び方を教えてほしいと回答した（92.1%）。88.6%は娘と一緒にその授業を受ける意欲を示した。多くの母親は、ブラジャー装着に関する正しい知識や情報の欠如による指導の課題を感じていることから、母親の方が娘に学校でそれらについて学ばせたいと考えていることが明らかになった。

第2節 中国における女子の第二性徴に関わる下着装着に関する母娘の意識の関係性

第二性徴に関わる下着装着に関する母娘の意識の関係性を重回帰係数で検討した結果、第二性徴に関わる下着装着に関する母親の知識・理解 ($t=4.17$, $p<0.001$), 実態・行動 ($t=3.27$, $p<0.01$) 及び関心・意欲 ($t=2.29$, $p<0.05$) のいずれも娘に影響を与えていることが明らかになり、その中でも、母親のブラジャー装着に関する知識・理解が最も強い影響を及ぼしていることが確認できた。

また、得点平均値の中央値を基準として、A「母高—娘高群」、B「母高—娘低群」、C「母低—娘低群」、D「母低—娘高群」の4つのグループを設定し、グループ別に分析した結果、母親の下着教育の実態・行動に関する3つの項目(項目22:月経や乳房の変化及びブラジャーについて娘との相談頻度、項目25:ブラジャーについて娘に教えたこと、項目26:母親がもっている知識・情報)において、項目22のみ群間に有意な差がみられた($p<0.001$)。グループ別の項目回答率によって、ブラジャー装着に関する意識の高い母親は、娘とブラジャー装着に関するコミュニケーションをより多くとっていることがわかった。得点平均値において母親が高くて娘が低い群であるB群では、母親は娘とコミュニケーションを交わしており、ブラジャー装着に関して正しい知識・情報をもっているにも関わらず、娘の得点は低い状況であった。従って、この母親たちの伝え方が適切でなかったのではないかと推測する。

第3節 中国における女子の第二性徴に関わる下着装着と家庭教育の課題

第1節と第2節の結果から、中国の女子の第二性徴に関わる下着装着の実態が望ましくないことが明らかになり、女子第二性徴に関わる下着教育の必要性が検証された。ブラジャー装着に関わる母娘の知識・理解、実態・行動、関心・意欲とも相関関係がみられ、母親は娘に大きな影響を与えていることが明らかになり、思春期にある娘の下着教育において、母親は重要な役割を果たしていることが再確認された。一方、母親の知識情報の欠如や娘とのコミュニケーション不足、また指導内容や指導方法が適切でないことが課題として挙げられた。ブラジャー装着に関する家庭の教育力を高めるには、学校及び下着メーカーなどが、母親に正しい知識や情報を提供し適切な指導方法を伝えるとともに、母娘のコミュニケーションの機会や場を設けることが必要と考える。

第5章 中国における学校と社会の女子の第二性徴に関わる下着教育の現状と課題

第1節 中国の学校における女子の第二性徴に関わる下着教育の現状

中国の健康教育における「成長発達と思春期保健」領域には膨大な内容が含まれており、乳房の発達やブラジャー装着に関する内容は、そのうちの4つの「二級目標内容」と関わっており、「体育と健康」のほか、小学校の「科学」と中学校の「生物学」が関連教科である。健康教育に関する基本認識に関して、半数ほどの教師は、健康教育と指導綱要の内容、また学校で女子児童生徒を対象に定期的に行われた思春期健康教育の講演の内容の詳細を知らなかった。学校で女子の第二性徴と適切なブラジャーの選択や着用について教えることを、ほとんどの教師が必要と考えていたが、乳房発達とブラジャーの選択や装着に関する内容を担当する教科の授業で指導を行った教師は、いずれも少なかった。乳房の発達に関する指導をするにあたり、自分に「あまり知識がない」、「知識がない」と回答した教師は合わせて半数を超えた。また、ブラジャーの選択や装着に関する内容について十分な知識をもっていないと思う教師は7割に上った。

第2節 中国の社会における女子の第二性徴に関わる下着教育の現状

1) 中国の企業による成長期向けのブラジャーの開発と第二性徴に関わる下着教育の現状

中国において、乳房の発達のプロセスに応じた成長期向けのブラジャーは2018年までにほとんどみら

れなかった。2019年9月女性下着メーカー都市麗人は「少女內衣ー成長三步曲・青春同齡不同様」³³⁾を
発表し、乳房発達の3つのステップに応じた「少女文胸（少女ブラジャー）」の販売を始めた。その後、
成長期向けのブラジャーを指す「少女文胸」という言葉が定着し、「少女文胸」を生産販売するメー
カーが多くみられるようになった。これらのメーカーのネット通販ホームページには、成長期向けのブラ
ジャーの特徴や機能を紹介しているとともに、ブラジャーの選択基準として乳房発達のプロセスについ
ても紹介し発信している。中国において、企業は成長期向けのブラジャーの開発販売について探究する
歴史が短く、日本のワコール（株）やグンゼ（株）のような下着教育を行う企業はみられなかった。

2) 思春期の女子向け市販本の内容分析

情報社会の今日は、溢れる情報が社会教育の一環として子どもたちに影響を与えている。このような
情報が氾濫する環境の中で、市販本は、ネット情報より信頼できる情報として利用されている³⁴⁾。2023
年6月26日に中国最大の書籍ネット通販サイト「当当网」で「青春期」と「女生」を検索語として、売
り上げトップ8の市販本（売り上げ順A～H）を対象として内容の分析を行い、主に下記のような結果
を得た。

著者の専門や立場から、教育学、心理学や医学の関係者のほか、さまざまな領域の関係者が思春期に
関わる健康教育に注目していることが分った。8冊のいずれも重版されており、利用率が高いと推測で
きた。内容の構成について、月経についての専門書であるBを除いて、他の7冊ともに第二次性徴に関
わる教育の生物学的側面、心理学的側面、社会学的側面という3側面について触れていたが、それぞれ
重点の置き方に差異があることが明らかになった。乳房発達やブラジャー装着について伝えるべきと思
われる15つの内容について、半数以上の項目に言及した本が1冊のみで、ほとんど言及していない本が
2冊あった。乳房発達のプロセスと特徴を紹介した本は半数に留まり、ブラジャーの役割や着ける意義
を紹介した本は2冊のみであった。ブラジャーを着け始めるべき時期について、3冊で述べられている
が、基準がそれぞれ異なった。また、乳房発達の過程に応じた成長期向けのブラジャーの選択を紹介し
た本は1冊もみられなかった。全体的に乳房の発達やブラジャー装着についての内容は比較的少なかつ
た。思春期に関わる健康教育の著書においても、女子の乳房発達やブラジャー装着については重視され
ていない現状が見られた。

第3節 中国における学校と社会の女子の第二次性徴に関わる下着教育の課題

学校教育においては、第二次性徴発達やブラジャー装着については健康教育の学習内容として明確的
に定められているものの、関連教科の教師の半数は健康教育指導要綱とその内容について知らなかつた。
ほとんどの教師は第二次性徴に関わる下着教育を学校で行う必要性を認めているものの、教科の授業とし
ての指導と個別指導を行っている教師が少なかつた。教師の健康教育に関する意識が低いことが課題と
して捉えられた。また、社会教育としては、さまざまな領域の関係者が思春期に関わる健康教育に注目
しているが、乳房発達やブラジャー装着については重視されていないことが分かった。中国の下着メー
カーが成長期向けのブラジャーの開発や販売に目を向けたのは最近であり、第二次性徴に関わる下着装
着についての発信はまだ販売の宣伝段階にとまっている。学校教育の関連教師の意識を高め、第二次
性徴に関わる下着教育に下着メーカーなど社会からの注目を集める工夫を行うことが課題である。

第6章 中国における女子の第二次性徴に関わる下着教育の展望

第1節 中国における女子の第二次性徴に関わる下着教育の改善の方向性

第3章の示唆と第4章、第5章の結果分析及び考察から、中国における女子の第二次性徴に関わる下
着教育において、学校は主導的役割を担い、関連教科の担当教師の意識を高めるほか、成長期向けのブ

ラジャーを開発販売している信頼できる下着メーカーに依頼して講座を開設することが望ましい。小学校 5 年の新学期の始めに、健康診断時に女子を先に終わらせ、母親同席のもとに下着教育の授業に参加することが理想ではないかと考えている。

第 2 節 中国における女子の第二次性徴に関わる下着教育の指導内容の検討

これまでの追究，検討に基づいて，女子の第二次性徴期に求められる身体の発達や下着についての基礎的な事項を次の 15 項目にまとめた。①乳房発達のプロセスと特徴，②第二次性徴期の発達の順序：乳房発達と月経の関係，③乳房発達の個人差，④第二次性徴期における乳房の変化による悩みとその対応，⑤乳房の異状への対応と病気の予防，⑥ブラジャーの役割と着ける意義，⑦ブラジャーを着け始める時期，⑧ブラジャーのサイズの測り方とサイズ表示の見方，⑨ブラジャーの種類と素材，⑩乳房の発達段階に応じた成長期向けのブラジャー，⑪ブラジャーの着け方，⑫購入時の試着と留意点，⑬ブラジャーの適切な手入れ（洗濯，干し方，収納），⑭ブラジャーを着ける際の悩みとその対応，⑮母親や身近な女性との相談。

第 3 節 中国の下着教育の意義と家庭，学校及び社会教育の協働・連携の必要性

女子の第二次性徴に関わる下着教育の意義を再考すると，①衣生活における自立能力の育成に不可欠である，②女性ならではの発達の特徴により，早い段階からの第二次性徴に関わる下着教育が必要である，③望ましくないブラジャーの装着実態や家庭での下着教育の希薄さの中で，第二次性徴に関わる下着教育への支援が必要であると考えられる。おな，第二次性徴に関わる下着教育における家庭，学校及び社会教育連携・協働の必要性については，①娘の心身発達を注目することを通して，母親の家庭教育への意識を高め，親としての責任を自覚する有効な機会となる，②教師として児童生徒の総合的発達及び成長を常に意識し，健康教育に対する認識を深め，自らの教育意識の転換を促す，③教育に関与する企業の社会的責任を呼び起こし，社会教育体系の健全化に貢献することができる。

終 章 研究の総括と今後の課題

本研究では，中国の第二次性徴に関わる下着教育において，母親が重要な役割を果たしており，家庭教育が中心的役割を担っていることが明らかになった。しかしながら，思春期の娘への健康教育に関する母親の意識や行動をさらに文献や調査によって追究することが必要である。また，現代の中国社会における母娘関係の実態の分析も必要である。それらを明らかにすることによって，女子の思春期に関わる健康教育の在り方に対する具体的な示唆を得られるものと考えられる。また，母娘のコミュニケーションや相互理解は下着教育を推進する鍵であるが，身体や性について話しづらい保守的な性観念がまだ多くの家庭に残っていることが確認でき，この課題の背景を追究することも必要である。さらに，母娘のコミュニケーションを促すために，下着教育に関わるパンフレットを作成し，母親の意識を高めることも効果的である。

また，第二次性徴に関わる下着教育の発展のためには，家庭教育を中心に，学校教育を基盤として，社会からの情報提供も取り入れたシステムが必要である。しかしながら，情報提供側にある中国の下着メーカーの成長期向けブラジャーの開発販売に関する追究が不足していた。今後は，学校との有効な連携に役立つ企業選別のために，信頼できる情報を収集し，企業の社会的責任感の醸成を促す工夫が必要と考える。本研究で提案した家庭，学校，企業の三者連携による下着教育の改善案を実践し，その教育内容と指導方法を検討し，教育効果と課題を探究することを今後の課題としたい。

〈引用・参考文献〉

- 1) Burnett E.; White J.; Scurr J.. The influence of the breast on physical activity participation in females. *J Phys Act Heal.* 2015, Vol.12, pp.588–94.
- 2) 梁偉紅, 方方, 趙想瑞. 西南地区女大学生文胸認知及其致因分析, 紡績学報. 2013, Vol.34, No.4, pp.117-121.
- 3) Parent AS.; Teilmann G.; Juul A.; Skakkebaek NE.; Toppari J.. Bourguignon JP. The timing of normal puberty and the age limits of sexual precocity: variations around thworld, secular trends, and changes after migration. *Endo Rev.*2003, Vol.24, No.5, pp.668-693.
- 4) 日野林俊彦他 5 名. 発達加速現象の研究・その 27, 日本心理学会第 77 回大会. 2013, p1035.
- 5) 羅交, 陳燕容, 段若男, 成果. 女孩青春期启动及发育趋势分析, 衛生研究. 2015, Vol.44, No.6, pp.1013-1046.
- 6) Lise Aksglaede, Kaspar Sørensen, Jørgen H. Petersen, Niels E. Skakkebaek, Anders Juul. Recent Decline in Age at Breast Development: The Copenhagen Puberty Study. *PEDIATRICS.* 2009, Vol.123, No.5, e933-939
- 7) McGhee Deirdre E.; Steele Julie R.; Munro Bridget J.. Education improves bra knowledge and fit, and level of breast support in adolescent female athletes: a cluster-randomised trial. *Journal of Physiotherapy.* 2010, Vol.56, No.1, pp.19-24.
- 8) Atefeh Omrani, Joanna Wakefield-Scurr, Jenny Smith, Ross Wadey, Nicola Brown. Breast Education Improves Adolescent Girls' Breast Knowledge, Attitudes to Breasts and Engagement With Positive Breast Habits. *Frontiers in Pubilc Health.* 2020, Vol.8, Article 591927.
- 9) 山田智子, 安田晴美, 伊藤紀子. 家庭科「衣生活」領域の指導内容に関する基礎的研究—若年層における下着の着用形態について—, 鳥取大学教育学部研究報告, 教育科学. 1995, Vol.37, No.1, pp.79-88.
- 10) 佐野史子, 鈴田あゆ子, 山平トモ. 小学校女児のブラジャー着装に関する一考察, 千葉大学教育学部研究紀要III, 自然科学編. 1997, No.44, pp.165-175.
- 11) 福本富美子. 下着装着傾向と学校における下着教育, 日本衣服学会誌. 1998, Vol.41, No.2, pp.1-5.
- 12) ワコール株式会社. ワコールの出前教室・ツボミスクール.
<http://www.wacoal.jp/demae-school/course/tsubomi/> (参照 2023-7-4).
- 13) グンゼ株式会社. グンゼ「下着指導キット」モニター募集, 教育家庭新聞報, 健康・環境, 下着指導. <http://www.kknews.co.jp/monitor/gunzeindex.html> (参照 2023-7-4).
- 14) ワコール株式会社. 開催実績, ツボミスクール,
<https://www.wacoal.jp/demae-school/course/tsubomi/case/> (参照 2023-7-4).
- 15) グンゼ株式会社. 下着指導モニターの声 (実践報告), 教育家庭新聞報, 健康・環境, 下着指導.
http://www.kknews.co.jp/monitor/gunze_mo.html#aa (参照 2023-7-4).
- 16) 徳重篤史. 『子どもの性』, 同朋舎. 1989, pp.21-24.
- 17) ワコール人間科学研究所. 子どものバスの成長変化の法則. 2012.
<https://www.wacoal.jp/hsrc/publication/2012/index.html> (参照 2023-11-4).
- 18) 中野広. 『おもしろ下着学 日本一』, 凸版印刷. 1985, p.48.

- 19) ワコール株式会社. ブラを着ける理由は大人とまったく違う
<https://www.wacoal.jp/advice/contents/post-39.html> (参照 2023-11-4).
- 20) Nicholas Hobbs. Families, Schools, and Communities: An Ecosystem for Children. Teachers College Record.1978, Vol.79, No.4, pp.756-766.
- 21) 田井康雄, 谷村千絵, 藤川信夫ら. 『人間と教育を考える』, 学術図書出版社. 2003, p.12.
- 22) 马永俊. 应试教育下家庭教育的误区与出路, 内蒙古师范大学硕士学位论文. 2013.
- 23) 中華人民共和国教育部. 基础教育课程改革纲要(试行), 中華人民共和国中央人民政府. 2001-6-8.
http://www.moe.gov.cn/srcsite/A26/jcj_kcjcgh/200106/t20010608_167343.html (参照 2023-10-24).
- 24) 中華人民共和国教育部. 教育部等十三部门关于健全学校家庭社会协同育人机制的意见, 中華人民共和国中央人民政府. 2023-1-13.
http://www.moe.gov.cn/srcsite/A06/s3325/202301/t20230119_1039746.html (参照 2023-7-7) .
- 25) 中華人民共和国教育部. 中小学健康教育指導綱要, 中華人民共和国中央人民政府. 2008-12-01.
http://www.moe.gov.cn/srcsite/A17/moe_943/moe_946/200812/t20081201_80266.html
(参照 2023-2-06).
- 26) 馮秀娟, 趙慧貞. 对中小学生青春期性教育的認識与思考, 深圳中医結合雜誌. 2016, Vol.26, No.11, pp.195-196.
- 27) 黄光梅, 陳秀娟, 張雪麗. 女性中学新生青春期保健知識教育效果調查, 中国婦幼保健. 2016, Vol.31, No.16, pp.3362-3363.
- 28) 姜学文, 云青萍, 纪颖, 何欢, 常春. 农村地区小学生青春期知识知晓水平及影响因素, 中国学校卫生. 2019, Vol.40, No.03, pp.347-349.
- 29) 严文文, 刘佩珊, 刘芳, 李楚华. 高中生青春期性教育现状的调查与分析, 中学生物学. 2020(08), pp.46-48.
- 30) 御手洗幸子. ジュニアブラジャー「ピエ・クレール」の開発, 日本纖維機械学会誌. 2004, 57 卷 11 号, pp.431-435.
- 31) グンゼ株式会社. 下着指導で体と心の成長を支える, 教育家庭新聞報, 学校施設, 学校保健. 2019-2-18. https://www.kknews.co.jp/post_health/20190218_3a (参照 2023-10-27) .
- 32) 文部科学省. 国の取り組み・地域と学校の連携・協働, 文部科学省ウェブサイト.
<https://manabimirai.mext.go.jp/torikumi/chiiki-gakko/> (参照 2023-7-7).
- 33) 都市丽人. 少女内衣—成长三步曲 青春同齡不同样. 2019-9-16.
https://www.sohu.com/a/341194496_120189956 (参照 2023-7-7) .
- 34) 駢玲玲. 新时代背景下公共图书馆纸质图书文献利用率研究, 造紙信息. 2023, No.5, pp.119-120.